

# かわらばん

ホームページ



令和3年4月

第255号

## 「かかりつけ医を持ちましょう」

院長 山口 誓司

令和3年度が始まりました。新病院の建設工事が進んでいますが、当センターも新しいスタッフを迎えてまた次のステップへ動き出しているところです。職員一同「地域に信頼され、地域になくってはならぬ病院へ」を目標に精進していく所存です。

当センターは令和3年3月10日に大阪府から地域医療支援病院としての認定を受けました。

地域医療支援病院とは患者さんに身近な地域で医療が提供されることが望ましいという観点から、かかりつけ医等への支援を通じて地域医療の確保を図る病院として、平成9年の医療法改正において創設されたものです。南河内医療圏は大阪府の中で唯一地域医療支援病院が一病院しかなかった地域であり、国立大阪南医療センターに次いで2番目の認定となります。地域の医療機関（かかりつけ医）と連携を図り、かかりつけ医を支援する医療機関としての機能を果たしていく予定です。



病院が求められている主な機能としては

1. 紹介患者さんに対する医療の提供（かかりつけ医等への患者さんの逆紹介も含まれます）
2. 医療機器の地域の先生方との共同利用
3. 救急医療の提供
4. 地域の医療従事者に対する研修とされています。

要約しますと、地域医療支援病院として、地域のかかりつけの先生と共同で地域の医療を守っていきましょうという趣旨になります。したがって、それぞれの機能に応じた医療提供体制の構築が求められています。地域のかかりつけ医の先生と病院は密な連絡体制を築き、それぞれの機能に応じた役割分担が必要となってきます。すなわち、病院は入院治療中心の治療にシフトして、外来診療は可能な限り地域のかかりつけ医の先生にお願いすることになります。今後は可能な限りかかりつけ医での診療を受けて頂き、入院診療が必要なときには当センターに入院していただくという形をとることが理想となります。このような趣旨をご理解いただき、かかりつけ医を持つように宜しくお願い致します。



医療の技術は日々進歩しています。その新しい技術や知識は患者さまの健康のために活用されるものであり、さらなる向上を必要とします。当センターには医師、看護師、薬剤師をはじめとする様々な職種が活躍しています。その中でも臨床検査技師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、臨床工学士、視能訓練士、管理栄養士、診療放射線技師の8職種は「医療技術部」というチームの一員となっています。

それぞれの職種を簡単に紹介すると、

臨床検査技師：血液検査やエコー、心電図などの検査、細菌や病理組織の検査など

理学療法士：立ち上がる、歩行するなどの体を大きく動かすような運動機能回復

作業療法士：日常生活がスムーズに行えるような動作の機能回復

言語聴覚士：嚥下（えんげ）などの飲み込む動作を中心とした検査や訓練、指導

臨床工学技士：人工呼吸器などの生命維持装置の操作や管理・保守

視能訓練士：斜視や弱視などの視能回復訓練や眼科での幅広い視機能検査

管理栄養士：患者さん一人ひとりに合わせた栄養管理（栄養指導、治療の一環とした食事提供）

診療放射線技師：レントゲン検査などの放射線を使った画像検査や放射線治療

というようにそれぞれに専門性があり診療に大きく関わっています。



この医療技術部という組織は十数年前に大学病院などの大規模な病院で発足し、その組織の考えなどが徐々に広がりました。今では多くの医療機関で存在します。当センターの医療技術部は、それぞれの職種の専門性を尊重しながら職種間のつながりを強固にし、進歩する医療技術の情報共有を図っていくことを目的としています。それによって患者さんに安全で安心な医療サービスを提供することはもちろん、より良い病院経営への参画ができる組織になるように努力しています。

## 「腹部エコー」で何を見てる？



## 臨床検査科 主査 長濱 泰子

2020年4月のかわらばん'での「エコー」の語源に関するお話は少し切ないものでしたね。今回はそのエコー検査、特にお腹のエコー検査で見えるもの見えないものについてお話したいと思います。

検査中、よく患者さんから「エコーで何が見えるの？」という質問を受けます。エコーが苦手としている代表的なものは、骨とガスです。この2つにぶつかると反射や減衰が起こり、画像を作ることが出来なくなります。「背中が痛いから見て欲しい。」という声がかたまにあるのですが、背中には骨に覆われ、その奥には肺という空気(ガス)の塊が存在するため見えません。基本的にはお腹の方から検査します。



では、何を見ているのでしょうか。具体的には、肝臓、胆嚢、膵臓、腎臓、脾臓などの臓器を見ます。時には、前立腺や膀胱、子宮や卵巣、そして大腸や虫垂などの消化管や大動脈などの血管を見る事もあります。

検査前に「食事をしないで下さい。」とお願いする理由は、食事をすると胆嚢から胆汁が出てしまい、小さくなってしまいます。すると、胆嚢の中にポリープや胆石があってもわからなくなります。検査中には、息を吸ったり吐いたり息止めをお願いする事もあります。それは、臓器を見やすい位置に動かしたり、肺や消化管ガスの影響を少なくするためです。

基本的には、前述した臓器等に出来た腫瘍や結石、異物などの存在や形態の変化を見ます。

他にも、お腹が痛くなった時に検査を行う場合があります。痛くなる原因にも色々あります。例えば、胆嚢炎、腎盂腎炎、腸炎や盲腸と表現される急性虫垂炎etc.・・・。このような疾患もエコーでわかる事があります。

簡単にまとめると、食事やお腹のガスなどで見えづらくなる事もありますが、臓器の形態や痛みの原因など、色々な事を見て調べるのに役立つ検査です。痛みもなく、乳幼児や妊婦さんも安心して受ける事が出来ます。何か気になることがあれば、先生に相談して是非エコー検査を受けてみて下さい！